役員室から

第7回
好きこそ物の上手なれ

Love is what makes you good at things.

野村裕宗（出光興産株式会社）

昨年末に竹内まりやさんの新譜が出た．ニュースワイド番組のメインテーマとしても採用されているらしい．「朝，コーヒーを飲みながらのぞき込む画面からは，問題が山積みの世の中が見えてくる」と歌う．年が明けても状況は変わらないどころか，悪化の一途だ．

野村が34歳で太陽光発電こそ天職と思い，エネルギー会社に転職した大きな理由は，エネルギーの自給自足が世界平和に繋がると信じて疑わなかったからだ．

勿論，地域紛争はエネルギー問題だけでは解決しないが，30年経った今でも，残念ながら「少しは役に立った」との実感は湧かない．

ウクライナに端を発した食料問題も昨今，あまり報道されなくなってしまったが，時を同じくして，昨年から食料問題とエネルギー問題を同時解決する手段に繋がるシステムの実証事業を開始した．太陽光パネル下部で育った稲は，収量・食味とも申し分ない．

先日，64歳になった．本学会の前身（日本太陽エネルギー利用協会）の設立から考えれば，ほぼ同い年である．大学1年から転職までの電子機器開発ベンチャー時代からの46年間，電気絡みばかりで過ごして来たが，毎日が工夫に満ちた遣り甲斐のある日々であったし，昨今，益々，アイデア噴出である．

本学会会員の多くを占める若手研究者の方々，特に学生諸君には，敢えて題記の諺を捧げたい．

今，その研究，好きですか？　意義はありますか？

企業人なら，その仕事，好きですか？　遣り甲斐はありますか？

無いとしたら，解決は二者択一．テーマを変えるか，もっと掘り下げるか．

昨今，転職や副業が叫ばれるが，私から見れば，アプリ業者に振り回されているだけにしか映らない．

「転職したら，こんなに道が開けた」

それは転職直後の感想では？　半年後も同じでしょうか？

転職前，当時の仕事を掘り下げて，考え抜いていたか？　工夫はあったのか？

副業をする時間があるのなら，本業をもっと掘り下げるか，副業を本業にすべきではないか．

どんな仕事でも，分野でも，一流のプロをイメージしたら，やる事，考える事，アイデアはいくらでも出てくる．

また，音楽の話になるがジャズサックス奏者の渡辺貞夫さんは92歳なった今でも，毎週の様に全国でライブ演奏を行っている．若い頃は，365日中の休みは2日だけで，その2日も移動日だったそうだ．野村と同い年のシティポップの先駆け角松敏生さんは，今，音楽と芝居とダンスを融合したミュージカルとは異なる新しいステージを展開している．

こういう大先輩や同世代の活躍を見ていると，益々，意欲が湧いてくる．

数年前に出会ったある研究者は，インパクトファクターを気にして研究内容を大きく変えようとしていた．研究の意義を履き違えてはいないだろうか．なんの為の研究なのか？

企業活動も同様の事象にぶつかる事は多い．

その提案事業の利益は？　リスクは？　その議論で潰される事多々．

当時，提携寸前に社内決済で潰された事業の相手先は，その後，自力でその分野のトップシェアを実現し，今もその地位を維持している．

世の中，なかなか思い通りにはならないものだが，それでも好きな事を続け，身に付いた経験の蓄積は膨大だ．そこだけは誰も侵す事は出来ないし，減る事もない．

そして，次の新たな事業・研究に繋がる．

好きな事の研究であれば，自ずとその質も上がる．